

気生第 9 7 7 号  
令和 5 年 7 月 1 8 日

宮城県知事 村 井 嘉 浩 様

気仙沼市長 菅 原 成  
(担当：市民生活部生活環境課)



(仮称) 宮城気仙沼風力発電事業に係る環境影響評価方法書に対する意見について (提出)

令和 5 年 6 月 2 0 日付け環対第 1 1 5 号で通知のありました標記の件について、別紙のとおり提出いたします。

担当：市民生活部生活環境課

環境政策係 吉田

TEL：0226-22-3417, FAX：0226-24-3566

E-mail：kankyo@kesenuma.miyagi.jp



(仮称) 宮城気仙沼風力発電事業に係る環境影響評価方法書に対する意見

1 大気環境 (騒音及び低周波騒音)

想定区域近傍には住居等が存在し、風車の設置想定区域から最寄りの住居等までの距離が約1キロメートルと極めて近いことから、風車の稼働に伴う騒音、低周波音、風車の影及び電波障害による生活環境への影響について調査、予測し、重大な影響の有無について評価した上で、影響を回避及び低減できるよう、想定区域の絞り込みを行うこと。

工事中資材等の搬出入における騒音について、調査期間等を昼間(6～22時)としているが、大型部品については、夜間の搬入となることから、実際の搬入時間を考慮した時間帯で調査すること。また、想定区域及び周辺の地形条件(上り勾配等)を考慮した上で、調査、予測及び評価すること。

音の感じ方には個人差があり、また、dB等の専門用語も一般の方には分かりにくいので、科学的根拠と分かりやすさを工夫し、丁寧に説明し、理解を得ること。

2 その他の環境 (重要な地形及び地質)

近年、大雨が増加しており、土砂災害等の危険性もあることから、雨の傾向については、過去のデータに止まらず、土砂災害発生リスクは、上方予想をしっかりと考えること。

想定区域には砂防指定地があり、また、土砂災害警戒区域等の上流域となっていることから、工事による排水を適切に処理するとともに、流域の雨水排水路や保安林機能を阻害しないよう施工管理を徹底し、土砂災害の防止に努めること。

想定区域及びその周辺の地形及び地質に対する影響について、土砂流失・保安林など、適切に調査を行うこと。

また、土砂等による水の濁り及び地下水について、季節的な変動及び周辺の利用状況等も踏まえて適切に予測及び評価すること。

3 動物 (重要な種及び注目すべき生息地)

動物類や希少猛禽類などの調査について、工事による排水の影響や行動圏の広い特性を踏まえるなど、適切に行い、予測及び評価を行うこと。

熊山周辺には熊が生息している可能性が高いことから、生息環境への影響、開発に伴う人里への影響についても可能な限り適切に予測・評価すること。

住民説明会においても、野生動物が生息環境を奪われ、里山に下りてくるとを心配する意見があったことから、科学的な根拠があれば望ましいが、住民不安の払しょくに向け、丁寧に説明すること。

#### 4 植物（重要な種及び重要な群落）

植物相及び植生に関する調査について、希少種がパッチ状に残っている可能性がある沢沿いの湿気がある箇所について特に留意すること。

想定区域内の藪の中に、ヤマツツジの群生が拡がっているため、その保全について特に留意すること。

#### 5 生態系（地域を特徴づける生態系）

想定区域及びその周辺には、重要な自然環境のまとまりの場が存在するため、事業の実施に伴う森林伐採等による日照条件の変化、保水機能の低下や濁水の発生など、稀少な動植物の生息・生育環境への影響が懸念されることから、その影響について、適切に調査、予測及び評価すること。

#### 6 景観（主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観）

設置される風車は、市内のすべての主要な眺望点から視認される可能性があることから、眺望点のほか、住宅地や想定区域周辺集落等、調査地点を適切に設定すること。

風車による景観の圧迫感を考慮した上で、景観への影響を調査、予測及び評価し、適切に想定区域の絞り込みを行うこと。

視野角が1度未満であっても、風車の稼働による誘目性を考慮するなど、複合的視点により眺望点を検討し、調査、予測及び評価すること。

主要な観光地に限らず、住民から求められた場所からのフォトモンタージュを作成・公表するなど、住民の不安解消に留意すること。

#### 7 人と自然との触れ合いの活動の場に対する影響

想定区域周辺は、市民の森が含まれており、遊歩道をはじめ、火災で焼失した雨天休憩施設を復旧させる計画もあることから、現状の利用状況についてヒアリングだけでなく、現地調査を行い、利用実態を適切に反映させ、静寂環境における利用を前提とした活動に対する影響について、予測及び評価すること。

新たな魅力の創出等、風力発電を活用した誘客についても検討すること。

自然と調和した整備や工事の進め方について、住民に丁寧に説明し、理解を

得ること。

また、徳仙丈山などの観光地もあり、5月中旬から下旬にかけて多くの人が訪れる日本屈指の名所である。今回の運搬ルートには、徳仙丈山のアクセスルートの一つとなっており、観光客が訪れる時期を調査し、当該期間中の工事を工夫し、観光へ配慮すること。

※ 黒森山周辺の「市民の森」については、森林とふれあいの場としての整備を行っており、景観の維持向上を図るため、広葉樹林を保全するとともに、針葉樹林についても、受光伐・枝打ちなど適切な森林整備を推進している。

また、徳仙丈高原については、市民の憩いの場及び観光地として市内外から親しまれる施設を整備している。

## 8 その他の影響

想定区域近傍及びその周辺には、既設の風力発電所があることから、累積的影響が懸念されるため、必要な情報を可能な限り入手した上で、累積的影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備などの配置等を検討すること。併せて、既設の風力発電所の事業者と協議をすること。

工事車両の往来に際しては、交通安全法令等を遵守するとともに、道路及び道路関連施設等の汚損・破損防止に努め、地域住民の交通安全を確保すること。また、不測の事態により、道路及び道路関連施設等に汚損・破損が生じた場合などは、速やかに交通管理者及び道路管理者への報告を行うとともに、その指示に従い適切に改善を図ること。なお、道路及び法定外公共物等の改良・占用にあっては、別途施設管理者の許可を得ること。